

講座名（専門科目名）	皮膚科学	教授氏名	
学生への指導方針	学生の希望を重視し、臨床に還元できる研究テーマと指導教官を決める。		
学生に対する要望	基礎領域の教室との共同研究を推進する。大学院修了後は積極的に海外留学する。		
問 合 せ 先	(Tel) 06-6879-3031 (Email) mkaneda@derma.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	金田眞理
その他出願にあたっての注意事項等			

(以下教室紹介)

大阪大学皮膚科学教室は1903年（明治36年）に櫻根孝之進先生が初代教授として「皮華科」の名称で開設されました。脈々と続く歴史を引き継ぎ、難治性皮膚疾患の基礎研究や創薬研究を展開しています。日常診療で患者さんから得られる疑問を解決する、現時点の医療知識、技術、医療機器で解決できない病態の治療法を創出するための研究を行い、Sick patient を治す姿勢をモットーに日夜、診療、教育、研究に取り組んでおります。医学部研究棟10階にある皮膚科学教室の医局からは万博記念公園と大阪市が一望でき、ここから世界に情報を発信し教室員一丸となり新しい時代の皮膚科学を創りだすことを目標としています。皮膚は精緻な恒常性維持機構を持ち最外層でのストレス侵襲に対応するため、その破綻が多様な皮膚疾患の原因や悪化因子となります。その中で、新たな皮膚の機能として表皮細胞が皮膚という末梢組織で自律的にコルチゾールを活性化する機能を明らかにしました。また発汗現象を3次元画像でイメージングすることで発汗に影響を与える因子を解析しました。暖まると皮膚が痒くなる機序として、アーテミンとよばれる神経成長因子が関与することを報告しました。また白斑の病態研究を推進しており、自己免疫機序の関与やオートファジーの関わりを発見しました。結節性硬化症は多彩な皮膚症状、肺、腎、中枢神経等に腫瘍ができる遺伝性難治性疾患のためその発症機構を研究しています。本疾患でm-TOR阻害シロリムスゲルが皮膚症状の改善に効果がある事を見出し、新規治療薬として承認され最近プレスリリースされました。悪性黒色腫や皮膚リンパ腫等の難治性皮膚悪性腫瘍を新たな治療法を取り入れ積極的に治療し、その発症機構や治療法の研究も行なっています。皮膚が関与する自己免疫疾患についてもミスフォールド蛋白質/HLAクラスII分子複合体による新たな自己免疫疾患発症機構を研究しています。以上のように皮膚に関連した幅広い分野の研究を進めています。